



『心の守破離』

岐阜県

大勇道場

中学2年生

大澤 瑠紗

私の通う大勇道場の武旗には「守破離」と書かれています。「守破離」とは日本人らしく、その道を極める為の成長段階を示した言葉で文字通り三つの段階に分けられます。守はひたすら教えを守り学ぶ事。破は教えの言葉から抜け出し真意を会得する事。離は型にとらわれず自在の境地に入る事。

日常生活の中でこの「守破離」のそれぞれの意味を例えると「守る」とは「わかる」「破る」とは「出来る」「離れる」とは「使える」事だとおもいます。剣道でいえば、どんなにうまくても試合になって使えなくては意味がありません。試合で使えるようにし、さらに大会や試合で培った経験をその先どのように生かすかが大切だと思います。「理解する」と「出来る」とは違います。道場の先生が「理解できてでも出来るようにならないと稽古する意味がない。」とよく言われます。その時に教えてもらった事をどれだけ素直に取り入れられるか、自分なりにどう工夫し応用していくかが大切です。そしてこの「守破離」は心の教えとしても同じ事だと思います。

みなさん、2年前のあの日の事を覚えていますか。3月11日の東日本大震災では多くの方が被害にあわれ私たちと同じ剣道仲間にも家族や友達、道場などを失い、つらく苦しい思いをした人もたくさんいます。私はそれまで当たり前のようにご飯を食べ、学校へ行き、剣道をする。全て当たり前だと思っていた事が、本当はそうではない事を何気なく生活できている事の喜び、その環境に感謝しなければいけない事をこの震災を通じてわかりました。また、海外の方が日本の報道を見て一列に並び配給を待つ姿、日本各地から募金やボランティアで支え合う姿を見て、すごいと思ったそうです。日本人には相手を思いやり、大切に作る心があり、強い絆で結ばれている事を改めて実感しました。私は日本人として周りの人を大切に思いやりの心を磨き一日一日を大切に過ごしていきます。一番怖くていけない事は、時間がたつにつれ、みんなの記憶からあの震災の事が薄れていってしまう事だと思います。今、私が直接被災地で被災者の方々へ出来る事は何もありません。しかし、この震災の事を忘れず、これを教訓として、みんなの心に残しておき、二度とこのような悲しい事が起きないように生かしていく事が大切ではないでしょうか。

震災で分かった事。私に出来る事。それを私の人生に生かしていく事。「守破離」に通じるこの事が、「心の守破離」だと思います。

剣道は私に、最高の先生、最高の仲間、大切な事に気付かせてくれた素晴らしい教えに出会わせてくれました。そして仲間と一つになって頑張る楽しさ、厳しい事を乗り越えた達成感、仲間と楽しみ、苦しみ、喜びを分かち合う大切さを感じる事が出来ました。そんな剣道が私は大好きです。

剣道を続けられているのは、いつも熱心に指導して下さる先生方、どんなに厳しい稽古も一緒に乗り越え励ましてくれる仲間。そして何より、いつも一番近くで支えてくれ「正しい事は正しい。正しくない事は正しくない。」と常に私を正しい道へ進ませしてくれる両親・家族のおかげです。決して一人で剣道をやっているのではありません。多くの方々に支えられ今の私があります。そんな方々への感謝の気持ちを忘れずこれからも一生懸命稽古に励みます。

私は今、剣道を通じて「守破離」と言う大きな教えを身につけている最中です。今の私はまだ「守」の段階です。この教えをすべて身につけ「離」の段階に行くにはまだまだ多くの時間がかかると思います。だからこれからも「守破離」の完成を目指し、生涯剣道を続けていきます。

「守破離」は剣道から学んだ教えですが、わたしはこの教えを「心の教え」そして「人生の教え」として受け止め、剣道を通じて人間形成の道を歩み続けます。